

2025年 大阪・関西万博での取り組み

阪神高速グループは、関西のくらしや経済・社会活動を下支えするインフラ企業として、大阪・関西万博の成功と関西経済のさらなる発展に貢献するため、万博関連プロジェクトを実施しました。

交通円滑化への貢献

淀川左岸線(2期)の会場アクセスルートへの活用

整備概要・活用状況

淀川左岸線(2期)区間は、大阪・関西万博開催時に新大阪駅などから万博会場となる夢洲へ向かうシャトルバスなどのアクセスルートとして位置付けられました。阪神高速道路(株)は、共同事業者である大阪市と協同し、建設中区間を駅シャトルバスやタクシーなどが通行できるよう、大阪市から受託している海老江地区や豊崎地区において通行に必要となる構造物を早期に完工し、構築した構造物へ舗装などの整備を行いました。その結果、約10万台の車両が万博開催期間中(2025年4月~10月)に淀川左岸線(2期)区間をご利用いただき、万博会場へのアクセス時間の短縮・定時性の向上・周辺道路の混雑緩和など、万博来場者輸送に大きく貢献するとともに、多くのお客さまに淀川左岸線(2期)完成後の効果を実感いただきました。



(仮称)豊崎ICのアクセスルートとしての活用



淀川左岸線(2期)区間を通行する駅シャトルバス

アクセスルート整備にあたっての環境への配慮

万博アクセスルートの道路整備に使用したアスファルト舗装は再資源化を行い、盛土材料に使用した再生砕石の一部については淀川左岸線(2期)の開削トンネル工事で活用するなど、共同事業者の大阪市と連携し、建設発生材の削減を図ります。

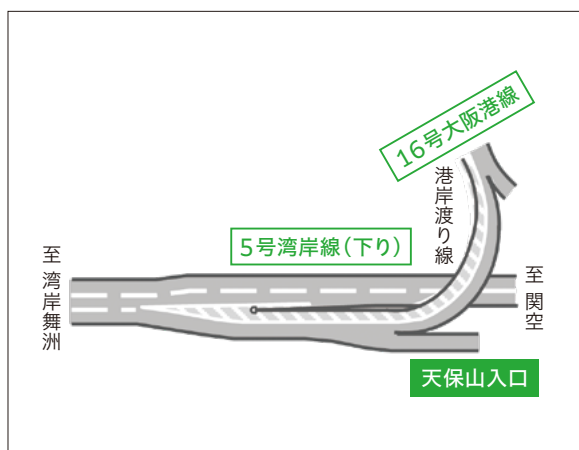


万博アクセスルートに使用した盛土(再利用予定)

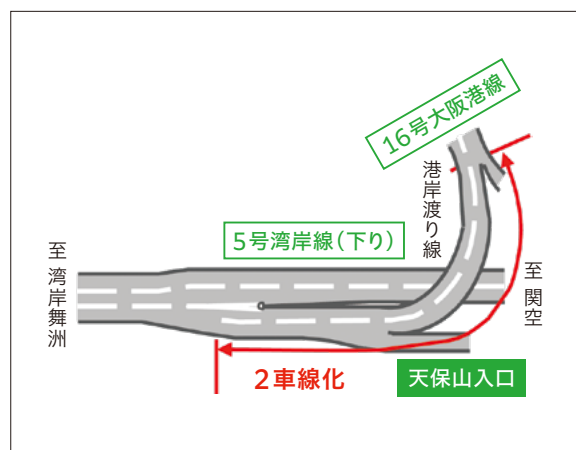
渋滞対策 ～車線運用の変更～

大阪・関西万博開催期間の交通需要の増大に対応するため、交通集中が想定される16号大阪港線から5号湾岸線（神戸方面）へ向かう天保山JCT渡り線および湾岸舞洲出口の車線数を1車線から2車線に変更した結果、北港JCT付近を先頭とした大きな渋滞が常態化することはありませんでした。

〈天保山JCT渡り線〉



変更前



変更後

多様なニーズへの対応

パーキングエリアでの対応

パーキングエリアでは、多言語表示やピクトグラム表示の統一によるわかりやすい案内やインフォメーションカウンターのリニューアルにより、ぬくもりあるお出迎えの演出に加え、時機を捉えた商品展開、万博に関するPR情報や広域観光情報の提供を行うなど多様なお客さまへのおもてなし施策の充実・強化を行いました。また、万博終了後には万博PRスポットの跡地を活用して、魅力ある空間の演出による「立寄りたいパーキングエリア」の実現のため施設改修を行いました。引き続き、お客さまにほっとしていただける空間「ほっと処(しょ)」の提供のため取り組んでいきます。



万博PRスポット(泉大津PA (陸側))



ハラール食品の販売

VOICE

大阪・関西万博への貢献とさらなる価値創出に向けて

淀川左岸線(2期)は、共同事業者の大阪市と大阪・関西万博会場へのシャトルバスなどのアクセスルートとして整備を行い、万博へ来場されるお客さまのアクセス時間の短縮や定時性の向上に貢献しました。また、(仮称)豊崎IC付近で開催した「阪神高速土木フェスタ」では、参加された皆さまに普段入れない建設現場を体感していただくとともに完成後の関西発展への期待の声をいただきました。建設事業のさらなる推進とステークホルダーの皆さまとの密な対話を通じ、高速道路ひいては関西都市圏の新たな価値創出に取り組んでまいります。



阪神高速道路株式会社
建設事業本部大阪建設部企画課
坂野 祐祐